

a 学校教育目標	夢や希望を持ち、心豊かな生きる力を身に付けた子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域・保護者の信頼を得て、前進する三原一の学校。 「三原小で学んでよかった」といえる学校
----------	------------------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策等	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					適正	不明	不適正		
確かな学力の育成	基礎・基本の徹底	三原小授業モデル(アクティブ・ラーニングによる授業改善)の活用	国語科・算数科の単元テスト平均70%以上の児童80%以上	平均70%以上の児童80%以上	90.6%	91.40%	114.2%	A	単元テストの目標値に対して、国語科14/14学級、算数科では12/14学級が達成している。学力調査の通過率については、調査未実施のため評価できない。3学期から低学年担任と専科が4、5年生の学級へ学習支援に入るようにした。習熟度に応じて別室指導を行ったり、プリント学習の支援に回ったりしている。	来年度も引き続き、相互参観や5分研修、研究授業を通して、全教職員で授業力向上を図っていく。また、桜山タイムや学力朝会を中心に、全教職員で児童の学力向上を支える学習支援体制の構築に引き続き取り組んでいく。	○			・コロナ禍において、工夫しながら授業を進めている。 ・一定の学習ルールの定着が見られ、どの学級も落ち着いて学習している。 ・桜山タイムに組織的に取り組んでいることが良い。	
		専科と連携した学力向上強化週間の実施 研修の充実(ICT機器の活用も含む)	学力調査の通過率平均通過率を各教科、全国平均+5P、各学年通過率40%未満を5人以下	通過率全国平均+5P 各学年通過率40%未満を5人以下						○					
		家庭学習の提出の徹底	家庭学習の提出調べを行い、7月12月2月に提出率を調査する。	97%	96.1%	96.7%	99.6%	B	家庭学習の提出率は、ほぼ目標値に到達している。忘れ物が多い児童が提出率が低い。家庭学習をやっていない児童が固定化しており、家庭の協力を得にくい。	家庭学習の意義を児童と共有する手立てや家庭学習に取り組みやすくする指導について、教職員で交流して、家庭学習の支援体制の構築に取り組んでいく。	○				
	学習規律の徹底	授業始と授業終スタイルの統一化、話型の指導の徹底	振り返りが言える児童の割合 教師評価で規律が身につけている児童の割合	90% 90%	92.7% 78.0%	98.9% 88.7%	109.8% 98.5%	A B	振り返りが言える児童の割合は、目標値を達成している。研究授業や相互参観、ノート展覧会を通して、教職員や児童が振り返りを意識できていた。 学習規律が身につけている児童の割合は、10月よりも増加しているが、目標値に僅かに到達していない。授業の中で、しっかりと聞くことを投げかけたり、ペアで確認させたりしたこと児童の意識が向上している。	児童の発言を増やし、学び方を評価していくことを継続する。振り返りの視点を整理し、児童と共有して振り返りの質を高める取り組みを進める。 話し手、聞き手の両方を共に鍛え、互いの考えを大切にすることを体験、実感させていく。	○				
豊かな心の育成	生活指導項目の徹底と体験活動の充実による豊かな心の育成	生活指導重点目標 5項目の徹底	あいさつ、時間厳守、ピカピカ無言掃除、右側歩行、靴揃えの徹底	児童による振り返りで5項目の得点平均が2点以上になる児童の割合 委員会による強化週間、調査の評価(年間3回、学期末1週間実施)	90%	92.1%	97.2%	108.0%	A	5項目の得点平均が2点以上になる児童の割合は概ね達成しており、5項目全てで達成している児童は95.1%であった。教師からの声掛けだけでなく、児童会や各委員会から実施の生活強化週間が、大きな成果を得るきっかけになった。ただし、あいさつや右側歩行など全員ができていないと言っているものもあり、日々の指導に生かしていく必要がある。	全校で取り組むべき重点項目を教員で周知し、児童会を中心に声掛けや強化週間を実施していく。また、よい行動に対しての教師からの肯定的な声掛けをより丁寧に行い、よさを価値付けていくようにする。	○			・挨拶がとても良い。継続して生徒指導5項目について徹底していることが良い。 ・学校で進めている自己肯定感を高める指導は重要である。引き続き行い、新しい世の中に立ち向かえる子供たちの育成に努めていただきたい。
		自己肯定感の向上	キャリア教育の充実	生活向上アンケートの実施(年間3回) 「自分は誰かの役に立っている」と肯定的に回答する児童の割合	90%	77.8%	81.5%	90.5%	B	「誰かの役に立っている」と肯定的に回答している児童の割合は目標値を達成していないが、中間時よりは向上している。各学級での係活動や委員会活動など、児童が十分に活動している状況は見られる。そのため、フィードバックが十分でないことが考えられる。仕事はしているが、その達成感を得られていない児童に、達成感を感じさせる手立てが必要である。	各学級での特別活動や委員会活動の時間に行う振り返りに「やって良かったと思うこと」や「こんな声をもらった」という観点を付けて、フィードバックを行うことで、達成感を得られるようにする。また、教師からの見取りとして、行った仕事への適切な評価を行うことで、児童が「しっかりとできている」と自己の振り返りを行えるようにする。	○			
	友達との関わりの強化	生活向上アンケートの実施(年間3回) 「友達に認められている」と肯定的に回答する児童の割合	90%	88.7%	88.4%	98.2%	B	「友達に認められている」と肯定的に回答している児童の割合は目標値達成まであと僅かであった。児童一人一人が自分の良さを発揮できるように手立てを打ってきたが、児童が友達から褒められたり、「良かったね」と共感してもらったりする体験の少なさが考えられる。	友達の良さを認めることは、意識的に行わないと難しいことであるため、特別活動の時間で、継続的に「自分の良さ見つけ」や「友達の良さ見つけ」を行っていくようにする。また、日常的にも教師から、児童の良い行動を見つけたときの具体的な肯定的な評価を行うことを継続していき、褒め言葉をたくさん浴びることができ環境をつくっていくようにする。	○					
健やかな体	健康教育と教育活動の工夫による運動能力・体力の育成	体力の向上	全項目の中から課題となる項目(「20mシャトルラン」)の改善運動を全校で実施する。	課題項目の解消	100%	-	-	-	-	コロナ禍の状況で、体力テストを実施できなかったため、課題項目の直接的な解消はできていない。そのため、引き続き体力の向上につながる活動を、新たに計画・実施する必要がある。	体づくり朝会等で、筋力や持久力の向上のため、10月以降でラジオ体操朝会や、縄跳び朝会を週1回実施することができた。	○			・体力の向上や食習慣、生活習慣については、引き続き学校課題に応じた取組を進め、改善に向けて努力してほしい。
		食習慣の定着	栄養教諭と担任とのTT授業、PTA事業の実施	健康週間による調査で、「金メダルの数(バランスの取れた朝食の摂取をしている児童の人数)」を85%以上にする。	85%	66.0%	70.0%	82.4%	C	健康習慣による調査結果で、「朝食を毎日食べている」の項目は全校平均で5点満点中4.9点で、朝食摂取は高い水準を保っている。しかし、「金メダルの数」は全校平均が3.5点となっており、朝食は摂取できていても、栄養バランスまでは意識できていない児童が多いことが分かった。	バランスの取れた朝食を食べることを啓発するために、保健だよりや食育を通して、継続して情報を発信していく。また、調査結果を元に、食習慣の重要性や学校での児童の様子をお便り等で伝え、食習慣の改善を図る。	○			
		家庭での生活習慣の定着	年1回の生活習慣実態調査の実施、保護者啓発活動の実施	健康週間の調査で、全体の平均が4点以上である児童を90%以上にする。	90%	52.0%	55.2%	61.3%	D	昨年度の結果と比較すると、特に、TVやスマートフォンの使用時間に関する項目が、著しく低下しており、コロナ禍における自粛の中で長時間使用していた習慣がそのまま定着してしまっただと考えられる。	長時間電子機器を使用している児童に対して、生活習慣を整えるように指導するとともに、情報機器の取り扱いについて学校で統一した指針を定め、情報モラル教育の推進を図る。また、保護者に学級懇談会等で協力を求めていく。保健だより調査結果と家庭で協力を願うことを掲載して啓発する。	○			
信頼される学校	保護者・地域から信頼される学校づくり	地域を繋ぐ教育活動の工夫	地域の行事への参加 ゲストティーチャーの奨励 幼・保・小・中の連携	各学年、年に2回以上	100%	66.6%	91.0%	91.0%	B	第1、3、4、5、6学年が2回以上実施した。第2学年が、コロナ感染症対策のため町探検が1回しか実施できなかった。各学年で計画したことを全て実現することが難しかったが、管理職と連携を取り、リモートや手紙等工夫しながら実施することができた。	来年度も、コロナ感染対策をした上で、児童主体の教育活動を進めながら、効果的にゲストティーチャーを奨励したり積極的に地域の行事に参加したりしていく。	○			・地域や伝統行事を大切にした教育活動を展開している。 ・働き方改革については、大変だと思うが、大切な項目であるので、改善に向けて頑張ってもらいたい。
		定期的な情報公開	学年便りの作成 HPの更新	月に1回以上	100%	100.0%	100.0%	100.0%	A	引き続き、月に1回以上、全学年が、児童の様子や連絡事項を保護者に知らせることができている。また、HPも計画的に更新している。	来年度も、三原小学校の教育内容が保護者、地域の方に具体的に伝わるように、お便りを出したりHPを定期的に更新したりしていく。	○			
		働き方改革(次世代の働き方への体制づくり)	計画的な時間外勤務の短縮	時間外勤務月45h以下を6か月以上実施	100%	50.0%	40.0%	40.0%	D	全職員が45時間以下を達成できたのは10か月中4か月であったが、昨年度と比較すると時間外勤務時間は減少しており、退校時間や仕事の優先順位を考慮業務を遂行するなど、職員の意識改革は進んだ。	準衛生委員会や学校経営会議や各種委員会等を活用しながら、来年度の時程や行事等の見直しを継続的にを行い、引き続き、学級事務や教材研究の時間確保を図る。また、月初めに個々の年間のトータル時数を確認させるなど自己管理へもつなげていく。	○			

【j: 自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である。 ハ: わからない。

ロ: 自己評価は適正でない。